

県内初の女性公認指導員を目指して



菊池 千絵さん
(ゆうきが丘第1)

2006年度栃木県テニスランキング1位の菊池千絵さんに、お話を伺いました。

昨年度は、シングルのほか、ダブルスが2位。過去にも3度シングルスで1位を獲得している栃木県テニス界の正に第1人者です。5月に開催された栃木県テニス選手権一般ダブルスでも、見事優勝しました。

菊池さんは、宇都宮市のテニスクラブで指導者としてジュニアから一般までの方の育成・強化をしており、また、町テニス教室の指導者として、町のテニス普及にも努めています。

菊池さんの家系はテニスになじみが深く、祖母が神宮大会(当時のインターハイ)3位に入賞。実母がインターハイ出場という経歴を持っており、その実母から「あなたもテニスがあっという間から。」ということ、中学生の時からソフトテニスを始めたそうです。

今月の輝ける星

その後、高校2年の時にインターハイに出場し、全日本ジュニアではベスト16に、全日本ジュニアランキングも15位と素晴らしい成績を残しています。

テニスの指導の傍ら選手として大会に出場しており、現在は、二人のお子さんの母親。辛いことはありませんかと尋ねると、「特別無いですね。逆に、テニスから学ぶことが多いです。選手としては、コンディショニングを整えるために、食事をどのようにするか。また、指導者としては、生徒や子どもたちから、逆に教わることも多いので、テニスをしていて辛いと思ったことは無いです。」と笑顔で話してくれました。

今後の目標は、「選手として、ベテランの全日本大会で優勝したいです。指導者としては、来年1月に日本体育協会公認指導者ライセンス(指導者を指導する資格)の最終試験があり、県内初の女性指導者を目指して、合格できるように頑張りたいです。」と大きな目標を語ってくれました。



かみのかわ 四季の野鳥

オオヨシキリ・コアジサシ

梅雨空の下、鬼怒川の堤防に上ると、「ギョシギョシケケン」と、あちこちのヨシ原からオオヨシキリの歌声が聞こえます。ヨシキリは初夏の風物詩として日本人にはなじみ深く、その鳴き声から「行々子」として俳句の季語にもなっています。

5月頃、南国から海を渡ってやって来たオオヨシキリは、ヨシ原に巣をかけ、昆虫などを餌に子育てします。オスは赤い口をあけて一日中、時には夜中にも囀り、なわばりを主張します。また、オオヨシキリは、カッコウがよく託卵する鳥としても知られています。ヨシキリ夫婦の留守を狙ってカッコウが産み落とした卵が先に孵化し、ほかの卵を巣の外に押し出して餌を独占します。憐れなヨシキリの親は自分より大きいカッコウのヒナにせせせと餌を運びます。

コアジサシも赤道を越え数千キロを渡ってくる夏鳥で、スマートな羽で飛び回り、小魚を見つけると、空中でのホバリングから一直線に水中に飛び込み、獲物を捕らえる名人です。海岸や河原などに集団で営巣し、砂利混じりの地面に簡単なくぼみを作って小石そっくりの卵を産みます。今はちょうど子育ての時期で親は交代で小魚を捕まえて運んできます。また、人間や動物などが巣に近づくと数羽が上空から「キリツキリツ」と鳴きながら急降下して敵を追い払います。



オオヨシキリ



コアジサシ